



人流データ分析で捉える
社会構造の変化

藤原直哉氏

情報科学研究科 人間社会情報科学専攻

准教授

スーパーコンピュータ「富岳」による
新型コロナウイルスの創薬研究

奥野恭史氏

京都大学大学院医学研究科
ビッグデータ医科学分野 教授



コロナ禍で顕在化した
自治体DXの課題と展望

廣川聡美氏

HIRO研究所代表 元横須賀市副市長

令和3年度 情報科学研究科 総合科学を考えるセミナー

ウィズコロナ時代の社会と情報科学

参加無料

登録フォームより
お申込みください
締切:12/2(木)

2021年12月4日 土

14時30分～17時50分

情報科学研究科 2階大講義室 / オンラインによる同時講演



参加登録フォーム

参加登録フォーム: <https://forms.gle/J2wUH9Rqi7jrDLof7>

連絡先: 情報科学研究科 教務係 TEL 022-795-5814 E-Mail is-kyom@grp.tohoku.ac.jp

情報科学研究科ウェブサイト: <http://www.is.tohoku.ac.jp>



ウィズコロナ時代の社会と情報科学

プログラム

開会

14:30

挨拶：情報科学研究科長 加藤 寧

講演

14:40

「人流データ分析で捉える社会構造の変化」

情報科学研究科 人間社会情報科学専攻 准教授 藤原 直哉 氏

特別講演

15:30

「スーパーコンピュータ「富岳」による 新型コロナウイルスの創薬研究」

京都大学大学院医学研究科 ビッグデータ医科学分野 教授 奥野 恭史 氏

(休憩)

特別講演

16:40

「コロナ禍で顕在化した自治体DXの課題と展望」

HIRO研究所 代表 元横須賀市副市長 廣川 聡美 氏

閉会

17:40

挨拶：情報科学研究科同窓会長 須川 敏幸

講師略歴

藤原 直哉 氏 (情報科学研究科 人間社会情報科学専攻 准教授)



2002年 京都大学理学部理学科卒業、2007年 京都大学大学院情報学研究科博士後期課程修了 (博士 (情報学))。Potsdam Institute for Climate Impact Research 研究員、FIRST合原最先端数理モデルプロジェクト研究員、東京大学空間情報科学研究センター助教、東京大学生産技術研究所特任講師等を経て、2018年より現職。複雑ネットワーク上での非線形ダイナミクスとその応用に興味を持っており、最近は大規模人流データのネットワーク分析を中心として分野横断的に研究を行っている。

奥野 恭史 氏 (京都大学大学院医学研究科 ビッグデータ医科学分野 教授)



1993年 京都大学薬学部卒業、同大学院薬学研究科にて博士 (薬学) 取得。同大学院医学研究科特定教授を経て2016年 京都大学大学院医学研究科ビッグデータ医科学分野教授、現在に至る。一般社団法人ライフインテリジェンスコンソーシアム 代表理事、理化学研究所計算科学研究センターHPC/AI駆動型医薬プラットフォーム 部門長を併任。専門は創薬計算科学、ビッグデータ医科学。

廣川 聡美 氏 (HIRO研究所 代表 元横須賀市副市長)



横須賀市出身。同市職員として、企画、財政、まちづくり、情報化などの業務を担当。企画調整部長、副市長等を歴任。現在はコンサルタント業の傍ら、総務省地域情報化アドバイザーとして、自治体DXを支援する活動や人材育成事業等に取り組む。著書等：「電子自治体実践ハンドブック」(共著：日本加除出版)、「まるわかり行政のデジタル化」(共著：日本経済新聞出版)、「月刊JLIS (連載) よく分かる情報化解説」(地方自治情報センター) 他。